

# 山中城址 【感謝巡礼案内】

高天神城址について、県外に住む、お城プロRe殿ユーザーの方々が”感謝巡礼”をする際に、参考にしてもらえればと思い作成しました。特別詳しく解説してはおりませんが、地元民の視点で見どころや行き方についてまとめてみました。ぜひ参考にしてみてください。

自分が他県のお城に感謝巡礼した時、こんな紹介サイトがあったらよかったなと思った内容にしています。





### ①『本丸側入り口』

山中城は城内に主要街道を通す事で、防備だけではなく、関所的な役割があった。（混んでいる時は手前にある大型駐車場に止めてください。そしてここは山中城址の見学入り口です。）



### ②『売店』

道路挟んだ反対側に案内所があり、そこで城址地図のパンフレットがあります。それと御朱印も受け付けている様です。



### ③『本丸側駐車場』

駐車場の奥にトイレと見学コースがあります。普通に5分近く探しました。



### ④『三の丸手前通路』

山中城址の感謝巡礼スタートです。

2021年10月現在、豪雨による工事でいけない所があります。







### ⑤ 『三の丸西堀』

自然の谷を利用している。中央の畝（うね）を境に、東側の堀は水路として排水を処理し、西側の堀は空堀として活用していた。（三の丸曲輪の西側を出丸まで南北に走る堀で、大切な防壁の役を担う。）



⑥ 『田尻の池西側』 令和元年の台風19号により崩落し、一度復旧したが、令和3年7月の長雨により再び崩落し、現在復旧処理中。（2021年10月現在、豪雨による工事でいけない所があります。今回の紹介順路はここを避けます。）



### ⑦ 『田尻の池』

貯水池であり、当時は馬が水を飲んだり、体を洗う場として使われていた。

（東側の箱井戸と田尻の池は一面の湿地帯であったとか）



### ⑧ 『箱井戸』

当時は、城兵の飲料水として使われていたと考えられている。（ここは古くから箱井戸として伝承されていた所。調査の結果ここ一帯は湿地帯であった）







⑨『二之丸入り口』

(⑥)を抜かしてここから行きます。



⑩『二ノ丸中門』

不思議な簡易門があります。



⑪『二ノ丸坂』

人工的に綺麗に整備された道を進みます。すごく特徴的な順路です。



⑫『二ノ丸見張り台』

ここを右に行くと二ノ丸  
左に行くと元西櫓に行きます

今回の順路では架け橋を渡って行きます







### ⑬ 『二ノ丸』

今回紹介している巡礼では後半で紹介し  
ます。ここはチラ見です



### ⑭ 『二ノ丸西木橋』

橋は曲輪と曲輪を繋ぐものとして重要で  
ある。山中城では木橋の数と種類が多  
く、山中城の特徴の一つと言える。



### ⑮ 『元西櫓』

本城は、2～3度改修されて規模を拡大している  
が、初期の築城における最西の曲輪であったと考  
えられている。（この曲輪は二ノ丸と西ノ丸の  
間に位置し、周囲を深い空堀で囲まれている。この  
深い空堀芸術です！！）



### ⑯ 『元西櫓北側』

溜め池、本丸に抜ける順路

（西ノ丸や北ノ丸へも続いています）







### ⑰ 『溜め池』

貯水池の跡で、山田川の支流が伸びて来た物を盛り土で仕切り、人口土手を造った跡



### ⑱ 『北側遊歩道』

障子堀り跡と本丸の分岐点

今回は本丸側に行きます。障子堀り跡側に行くと、パンフレットの西ノ丸外周にいけます。



### ⑲ 『二ノ丸北側』

本丸跡に続く道



### ⑳ 『本丸跡』

山中城の堀の特色の1つが畝（うね）。この堀の中にわずかに見えるのが畝（うね）の頂部です。ここでは畝と書いてますが現地では障子とも表現しています。







### ⑳ 『北ノ丸堀』

城の内部へ敵の進攻を防ぐため、この堀は山中城全域を囲む様に掘られている。(山城の生命は堀と土塁にあると言われ、堀の深さが深く、幅が広いほど曲輪に造られる土塁が高く強固になる)



### ㉑ 『北ノ丸跡』

北の丸は、天守閣に近く、高い位置にある為、とても重要な曲輪であった。本丸側を除いた三方を土塁で囲んでいた。(標高583m天守櫓に次ぐ本城第二の高地に位置している)



### ㉒ 『駒形諏訪神社山道』

北ノ丸跡を降りていくとここに出ます。  
ここでは更に公道側に進みます



### ㉓ 『駒形諏訪神社入り口』

史跡山中城址の石碑と共にある入り口。  
駐車場もなくここから入る利点はあまり感じられない







### ②5 『駒形諏訪神社』

本丸守護の為に祀られた



### ②6 『駒形諏訪神社の大カシ跡』

推定樹齢500～600年と推定されていたが、平成30年に倒木し、平成31年に県指定天然記念物解除となった。



### ②7 『兵糧庫跡（弾薬庫）』

西側から建物の住穴が確認され、周辺からは平たい石が出土したため、建物があったと考えられている。（ここは古くから兵糧庫や弾薬庫と伝承されていた場所と考えられている。）



### ②8 『兵糧庫跡の柱穴と大きな穴（弾薬庫）』

発掘調査の結果、この西側の区画から役20個の小穴がほぼ東西南北に続いている







### ②9 『休憩所（兵糧庫）』

この地点より食器の洗い場、下水溜まり  
建物跡が検出されたため、兵糧庫と呼称  
する事になった。



### ③0 『矢立の杉（市指定天然記念物）』

名前の由来は、出陣の際に杉に矢を射立  
て勝敗を占ったためと「豆州志稿」に記  
述がある（山中城本丸の天守櫓に接し植  
生している）



### ③1 『本丸跡』

北には北ノ丸、西には西ノ丸、南西には  
二ノ丸・三ノ丸など、本丸を中心に曲輪  
を配置している。（標高578m面積1740  
㎡天守櫓と共に山中城の中心となる曲  
輪）







### ③2 『北ノ丸跡への順路（天守台）』

本丸跡敷地から北ノ丸に行ける順路  
私は北ノ丸を下り②3を通りましたが、こ  
こから北ノ丸と本丸を行き来できます



### ③3 『本丸と北ノ丸を繋ぐ木橋』

二ノ丸木橋とは違い、本丸北側の木橋の  
橋脚台は、堀底に盛り土して二本柱を立てた簡単な物。（発掘調査の結果、本丸  
と北ノ丸を結ぶ掛橋の存在が明らかにな  
った）



### ③4 『天守櫓』

本城最高の標高に位置している（標高586  
m天守櫓の名にふさわしく、山中城第一  
の高地に位置している。）



### ③5 『二ノ丸東見張り台』

広大な二ノ丸を一望できる台場  
絶景です！！







③⑥ 『二ノ丸西見張り台』

広大な二ノ丸を一望できる台場（ここは前半で紹介した⑫です）  
絶景です！！



③⑦ 『西ノ丸東』

土塁は城（曲輪）の虎口（入り口）の前を通路だけ残して左右に堀を掘って城への出入口の通路として造られる



③⑧ 『西ノ丸入り口』

今回工事で歩けないところを遠方から撮っています（2021/10時点）



西ノ丸に向かいます。  
旧西ノ丸へは工事中でいけません







### ③9 『西ノ丸』

本城一の広大な曲輪。この曲輪の堀は、南から西、北へと繋がり、北側の堀が自然の谷へと繋がっている。（3400㎡の広大な面積をもつ曲輪で、山中城の両方防備の拠点）



### ④0 『山中城の建物（西ノ丸）』

西ノ丸を全面発掘したが建造物は発掘されなかった。



### ④1 『西ノ丸北側土塁』

山中城のどの曲輪も土塁で囲まれている。石垣を使う以前の戦国時代の城は全て土塁と堀が築城のポイント



### ④2 『西櫓』

「角馬出」とも呼ばれ、攻撃は西櫓で、防御は西ノ丸で、といった区別で攻守機能を発揮した。後の北条氏の特徴の一つ。







#### ④③ 『西ノ丸台場見張り』

この見張り台は、下からの盛り土によって構築された。他の曲輪との連絡、通報を行う上での重要な拠点。



西ノ丸から (⑩⑥) まで行き、(⑩⑧) の分岐で障子堀り跡側に進んでいきます



#### ④④ 『西ノ丸北側』

障子掘りは後の北条氏の特徴的な堀。上から見ると障子の様な堀残しがある為、名付けられた。



#### ④⑤ 『休憩所 (西ノ丸外周)』







#### ④6 『三島市眺望地点（西櫓北側）』

眺望の良さは山中城の特徴の一つ。山中城からは駿河湾、三島・沼津平野など、伊豆地方北部から駿河地方一帯が眺望できる。



#### ④7 『西櫓の架け橋』（西櫓北側）』

西櫓の曲輪を囲む役82mの西櫓堀は9区画に区切られている



#### ④8 『西ノ丸北側』

堀内には、ほぼ9メートル間隔に8本の畝が堀の方向に対して直角に作られている



9区画の堀です。  
絶景です！！







#### ④『西木戸口東側』

山中城址の散策コース一番奥です  
西櫓を囲う帯曲輪から外堀までの場所を  
西木戸という。当時は城門と柵があった  
と考えられている。



#### ⑤『箱井戸南側』

(⑧)に戻っています



#### ①『箱井戸入り口』

(山中城址を離れるので①です)



#### ②『戦国武将の墓』

山中城で戦った敵味方、両方の石碑。左  
が北条軍の間宮康俊や松田康長などの武  
将たち、右が豊臣軍大将、一柳伊豆守直  
未。







### ③ 『宗閑寺』

戦で命を落とした者達を弔う為に県立した寺



### ④ 『宗閑寺西側』



### ⑤ 『宗閑寺西側』



### ⑥ 芝切地蔵尊

この地で亡くなった巡礼の旅人を地蔵尊として祀り、その旅人の故郷が見える様に芝塚を積んだ。

(箱根旧街道の通りにあります)

